



AIで絵本作り

11月5日、伊万里市民図書館で、AIを活用して社会のDX普及に貢献しようとして活動している市内外の若手経営者で組織されたIX・Party（ナインパーティ）が、ワークショップを開きました。この日は、市内小学生とその保護者など約20人が参加し、AIの機能を活用して物語を生み出したあとに、絵本を作りました。なお、この日、IX・Partyは、AIの理解につなげてほしいと、11冊のAIに関連した本を伊万里市民図書館に寄贈しました。



↑ IX - Party 代表の上原泰三さん（右から2人目）



↑ できあがった絵本をうれしそうに読む親子



将来の夢を自由に思い描ける社会構築を

● 問合先 企画政策課

男女協働推進係（☎23・2115）

皆さんは誰にでも『職業選択の自由』があることをご存じですか。このことは、日本国憲法に定められています。職業は自由に選んでも、思うようにならないのが現実です。専門的な職業については資格が必要でし、資格が足りない職業についても、学問による基本的な知識が求められます。学生の頃は「こんなもの必要ないでしょ」と思っていたことでも、実際に職に就いたら役に立つことが意外と多くあります。

昨今では、就職活動において企業側が学歴で選考のふるいをかける『学歴フィルター』があり、自由とはかけ離れた現実があります。私は介護に関する職に就いていますが、介護事業所の存続の課題として、後継者の育成や技術継承があげられるほか、人口減少による人手不足・人材不足から、更に事業の維持が困難な状況に直面しています。

人の手による作業を効率的に行うため、AIを活用して時間短縮や作業の軽減を図り、経営改革を行っている事業所が多数ありますが、このことが人材不足解消の決定打になっているかどうかは疑問です。むしろ、年齢や男女を問わず活躍できる職場であることのほうが事業を継続させるポイントなのではないでしょうか。

職種を問わず職場環境の改善を図り、雇う側と雇われる側の双方が話し合い、希望にそった働き方が出来る社会環境づくりが望まれます。子どもたちが将来の夢を持ってなくなつたと言われ始めて久しいですが、両親や祖父母が働く姿を見て「自分もこんな仕事かしたいな」と自由に思い描ける社会になることを心から願っています。

【伊万里市男女協働参画懇話会「いまりプラザ」委員】

郷土の文化財

● 問合先 生涯学習課文化財係（☎22・1262）

史跡大川内鍋島窯跡調査事業

（はっぱうしやしたかまあり）

日峯社下窯跡の調査成果⑤

前回は、伝世品と出土遺物の関係について説明しました。写真①②は伝世品で、表の文様とほぼ同じ破片が日峯社下窯跡から出土（写真③④）しています。が、よく見ると高台部分が違つ

ています。伝世品は低く、一般的な皿の高台と同じですが、出土品は鍋島焼の特徴でもある高い高台となっており、のこぎり状の文様（鋸歯文）も描かれています。



写真① 色絵唐花文皿

鍋島焼は最初、有田で製作していましたが、意匠や技術が漏れないように、また陶工たちを管理するため大川内山に移転しました。高台の低い伝世品は有田時代のもので、大川内山に移転後、高台が高くなつたのではないかと考えられますが、今後も調査が必要です。



写真② 色絵唐花文皿



写真③



写真④